東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修　第7期　カリキュラム

カリキュラム中の「重症児」は、「重症心身障害児（者）」を指す。

	教科	時間数	ねらい	科目	目標	講義内容
専門基礎分野	重症心身障害児者施設の変遷と動向 医療の現状 [重症児概論] (14)	2	1）重症心身障害児施設の変遷を理解し、重症心身障害児を理解する上で必要な基礎知識及び福祉の動向を学ぶ。	重症心身障害者の歴史・概念と定義	1.重症心身障害者の歴史・概念と定義について理解する	1.施設制度の歴史的変遷、重症児(者）の概念 2.定義の変遷、評価（大島・横地など） 3.超・準超重症児、動く重症児、発生原因と頻度
		3		周産期医療（NICUにおける医療）	1.周産期医療について理解する 2.NICUを取り巻く現状と課題について理解する	1.最近の周産期医療について 2.生命倫理について 3.NICU退院支援体制（都の政策）について 4.NICUを取り巻く現状と課題
		3		発達評価（医学的診断・評価）	1.発達評価ついて理解する	1.発達評価とは 2.心理・運動・社会性等（遠城寺式、WISK、MEPA-ⅡR等）から見る方法 3.大田ｽﾃｰｼﾞや田中ﾋﾞﾈｰから支援のヒントや指標を得る
		2		重症心身障害児(者)の実態（高齢化・重度化）	1.重症児(者）の実態（高齢化・重度化）を理解する	1.増加する重症児（医療的ケア児）の推移と現状 2.レスパイト施設の不足・在宅療養児(者）への支援のあり方と課題 3.療育施設が今できること
		2		障害児(者)の人権擁護・虐待防止	1.重症児(者）の人権と人権擁護の考え方を理解する	1.人権の尊重、プライバシー保護、個人情報保護 2.児童虐待、抑制、体罰、ネグレクト 3.社会権にみる重症児(者）の権利 4.条約・国内法にみる重症児(者）の権利保障 5.重症児(者）の権利を保障する看護の倫理 6.身体拘束
		2		医療福祉制度の潮流と今後の動向	1.今日の医療福祉制度と重症児(者）ケアにおける課題を理解する	1.重症児(者）に関する法律と活用 2.医療福祉制度の現状と課題 3.成年後見人制度 4.重症児(者）在宅ケアの社会資源
	重症心身障害児看護概論 [重症児看護概論] (20)	3		重症心身障害児(者)施設の看護倫理	1.重症心身障害児(者)施設の看護倫理を理解する 2.看護場面での倫理的葛藤を生ずる状況を理解する 3.困難状況に向かう看護専門職の倫理的感受性を習得する 4.倫理的ジレンマの解決へ向ける方法を考えることが出来る	1.日本看護協会倫理綱領、重症児(者）の看護倫理とは 2.ノーマライゼーション・日常配慮すべきこと（ケア等） 3.障害者の基本法 4.重症児(者）の権利（自己選択・意思決定支援）プライバシーの保護・個人情報保護法・医療行為に対する倫理 5.看護職としての倫理的課題、 6.倫理的ジレンマの解決。
		2		重症心身障害児の成長発達の特徴	1.重症児の成長発達の特徴を理解し、発達の概念、評価および支援について理解する。 2.重症児の発達評価方法を習得し、支援プランを考えることができる。 3.発達の特殊性を理解する。発達援助法を理解する。 4.生活支援するための視点や、生活環境の調整ができる基本的な知識を学び、看護実践に活用できる。	1.重症児の発達段階のそれぞれの特徴を知る 2.発達の概念評価および支援 3.成長発達を促す遊び 4.障害のある子ども、重症児の発達の特徴 5.発達の評価と支援 6.発達の特殊性：発達年齢の分布について 7.発達のアンバランスについて 8.大島分類から見た傾向 9.ライフステージに沿った看護の支援
		3		重症心身障害児のコミュニケーション	1.重症児(者）のコミュニケーションを理解する 2.生活を支援するための視点や、生活環境の調整ができる基本的な知識を習得する 3.重症児者への多様なコミュニケーションのあり方について理解する 4.個別性に応じたコミュニケーションの方法について考えることが出来る	1.コミュニケーション障害とその対応 2.コミュニケーションツール 3.心の発達 4.生理的、心理的アプローチ 5.効果的なコミュニケーションについて 6.子供の発達とコミュニケーション 7.重症児者のコミュニケーション問題 8.コミュニケーション支援 9.コミュニケーション支援に利用出来る設定活動について 10.支援者自身の課題について 11.ICTについて
		2		重症心身障害児(者)の生活を支える看護	1.重症児(者）の生活を支える看護を理解する 2.生活を支援するための視点や、生活環境の調整ができる基本的な知識を学び、看護実践に活用できる	1.重症児(者）の生活 2.重症児者にとっての日中活動 3.生活環境の調整 4.生活を見つめる視点、 5.重症児者のQOL及び課題 6.自施設でのQOL向上について考える。

東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修　第7期　カリキュラム

カリキュラム中の「重症児」は、「重症心身障害児（者）」を指す。

	教科	時間数	ねらい	科目	目標	講義内容
		2		重症心身障害児(者)のエンドオブライフケア	1.重症児(者)の終末期看護を理解する 2.生活を支援するための視点や、生活環境の調整ができる基本的な知識を学び、看護実践に活用できる	1.エンドオブライフケアの実践 2.治療の選択 3疼痛への看護 4.緩和ケア 5.人生のQOL 6.家族への支援 7.職員のサポート
		4		重症心身障害児(者)のACPと意思決定支援	1重心児（者）のACPと意思決定支援の考え方を理解する	1ACPについて 2.意思決定支援 3家族への支援 4他職種との関わり
		2		重症心身障害児(者)の療育における看護の役割	1.重症児(者)の療育における看護の役割について理解する 2.ライフステージに沿った援助を協働連携できる	1.療育の歴史 2.療育の定義 3.重症児(者)おける療育 4.重症児のQOL 5.ライフステージごとの課題と医療・福祉の関係 6.ライフステージに応じた看護。
		2		重症心身障害児(者)施設のチームアプローチ	1.重症児者施設における他職種の役割と機能を理解する 2.重症心身障害児(者)施設のチームアプローチについて理解し、ライフステージに沿った援助を協働連携できる 3.チームマネージメントを理解する	1.他職種（医師・保育士・介護福祉士・リハビリ・生活支援員等）との協同・連携 2.それぞれの職種の専門性 3.チーム医療における看護師及びコーディネーターの役割 4.チームアプローチとチーム医療について 5.チームマネージメント
	地域支援ネットワーク [重症児各論] (15)	3		重症心身障害児(者)の在宅支援	1.在宅で生活している重症児者と家族に適切な対応・支援ができるよう地域の連携、様々なネットワークについて理解する	1.東京都の在宅支援事業の概要 2.東京都と民間の訪問看護ステーションの違い 3.通所事業等現状と課題 4.保健所との連携
		4		医療・福祉・地域との連携	1.福祉制度を理解し、家族に適切な対応・支援ができるよう地域の連携、様々なネットワークについて理解する	1.福祉サービス種類・内容について 2.障害者総合支援法における福祉サービスの現状と課題 3.通所事業における現状と課題（療養通所も含む）
		4		重症心身障害児と特別支援学校	1.家族に適切な対応・支援ができるよう地域の連携、様々なネットワークについて理解する	1.特別支援学校の教育制度について 2.特別支援学校における医療的ケア児の現状と課題 3.特別支援学校と医療機関、施設、家庭との連携
		4		親の会の活動・ボランティア活動	1.家族に適切な対応・支援ができるよう地域の連携、様々なネットワークについて理解する	1.親の会の活動について 2.障害児を持った家族の思いについて 3.ボランティア活動について
		3	1）重症心身障害に主病態の診断治療を理解する。 2）重症心身	主要3病態 （脳性麻痺・てんかん・知的障害/行動障害）	1.脳例麻痺・てんかん・知的障害・発達障害（行動障害・重症児(者）の診断・治療について理解する	1.脳性麻痺の定義 2.脳性麻痺の発生頻度と発生原因 3.脳性麻痺の分類(麻痺の身体分布による分類 4.筋緊張の異常の種類による分類 5.麻痺の定義と程度 6.生命維持機能 1.てんかんの定義と分類 2.てんかんの診断 3.てんかんの治療

東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修　第7期　カリキュラム

カリキュラム中の「重症児」は、「重症心身障害児（者）」を指す。

	教科	時間数	ねらい	科目	目標	講義内容
	重症心身障害児者の主病態 [重症児医療各論] (16)					1.知的障害の定義と歴史 2.知的障害の概念 3.行動障害のとらえ方 4.行動障害の特徴とその要因 5.行動障害への対応と管理上の注意点
		1		先天異常	1.先天異常の診断・治療について理解する	1.先天性疾患・遺伝性疾患・後天性疾患の定義と特徴 2.頻度と原因、診断と治療
		3		重症心身障害児(者)の合併症（呼吸器）	1.重症児(者）の合併症（呼吸器）について理解する	1.呼吸障害の要因 2.呼吸障害の起こり方 3.呼吸不全の診断基準 4.呼吸障害の症状 5.呼吸障害の診断・評価の方法 6.治療と対策 7.呼吸管理上の注意点
		2		重症心身障害児(者)の合併症（消化器）	1.重症児(者）の合併症（消化器）について理解する	1.消化器障害の要因 2.消化器障害（GERD・潰瘍・便秘・イレウス）の起こり方 3.消化器障害の症状 4.消化器障害の診断・評価の方法 5.治療と対策 6.管理上の注意点
		2		重症心身障害児(者)の合併症（栄養・摂食嚥下）	1.重症児(者）の合併症（栄養・摂食嚥下）について理解する	1.摂食・嚥下障害の要因 2.摂食・嚥下障害の起こり方 3.摂食・嚥下障害の症状 4.摂食・嚥下障害の診断・評価の方法 5.治療と対策 6.栄養評価について 7.誤嚥時の対応
		1		重症心身障害児(者)の合併症（泌尿器）	1.重症児(者）の合併症（泌尿器）について理解する	1.排尿障害の要因 2.排尿障害の起こり方 3.排尿障害の症状 4.排尿障害の診断・評価の方法 5.治療と対策
		2		重症心身障害児(者)の合併症（整形外科）	1.重症児(者）の合併症（整形外科）について理解する	1.筋緊張のタイプ別特徴 2.筋緊張のタイプ別発達の支援 3.姿勢とリラグゼーション 4.骨折の要因 5.骨折と抗重力姿勢 6.重症児(者）の骨折の特徴と治療 7.骨折時の注意点 8.骨密度・骨折予防と対策・管理上の注意点
		2		重症心身障害児(者)の口腔管理	1.重症児(者）の口腔ケアに関する基本的アセスメント能力を身に着け、看護展開ができる能力を身につける	1.口腔ケアの基本 2.重症児(者）に見られる口腔の問題点(齲歯・歯周病・歯列不正・歯肉肥大・口腔乾燥・高口蓋・舌苔の付着・乳歯の残存・咬反射の残存・口腔過敏・発作・転倒による歯の脱臼・破折・咬耗・加齢)
		2		てんかんの看護	1.てんかんの病態や治療について理解する 2.生命・生活を守るための看護を理解し、日々の看護実践に活用する	1.てんかんの機序 2.発作パターン 3.薬物療法の実際 4.難治性てんかんへのケア 5.発作を予防するための生活ケア 6.発作時のケア 7.成長発達に伴うケアの注意点
		1		重症心身障害児(者)の高齢化による障害と看護	1.重症児(者）の高齢化を起因とする病態生理等について理解する 2.生命・生活を守るための看護を理解し、日々の看護実践に活用する	1.呼吸・消化器・循環機能低下に対するケア 2.エンドオブライフケアの実際 3.緩和ケアの実際 4.DNARの実際

東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修　第7期　カリキュラム

カリキュラム中の「重症児」は、「重症心身障害児（者）」を指す。

	教科	時間数	ねらい	科目	目標	講義内容
専門分野	重症心身障害児者の障害と看護 ［重症児看護各論］ （23）	3	1）重症心身障害に主病態の診断治療を理解する。 2）重症心身障害児者の主たる合併症に	呼吸器疾患の看護	1.呼吸器疾患にかかる基本的アセスメント能力を身に着ける 2.それぞれの状態に合わせた看護展開ができる能力を養う	1.呼吸障害の原因 2.重症児特有の呼吸症状とそれに対するケア 3.肺炎・無気肺の予防ケア（陽圧換気・ドレナージなど） 4.排痰ケア 5.気管切開 6.人工呼吸器の管理と観察項目・注意点
		2		消化器疾患の看護	1.消化器疾患にかかる基本的アセスメント能力を身に着ける 2.それぞれの状態に合わせた看護展開ができる能力を養う	1.重症児特有の消化器官の解剖生理と症状 2.腹部症状の看方 3.GERDの症状と検査・治療とケア 4.薬物療法
		3		栄養管理・摂食・嚥下の看護	1.栄養管理にかかる基本的アセスメント能力を身に着ける 2.それぞれの状態に合わせた看護展開ができる能力を養う	1.栄養評価の方法（体重コントロール・生体検査） 2.経口摂取（誤嚥予防のための注意点） 3.経管栄養法 4.胃瘻、腸瘻 5.CV管理
		3		皮膚・排泄障害の看護	1.排泄障害にかかる基本的アセスメント能力を身に着ける 2.それぞれの状態に合わせた看護展開ができる能力を養う	1.便秘と下痢のケア 2.ストマケア 3.CIC 4.尿路感染症の予防とケア 5.イレウス症状と予防ケア
		2		筋骨格系の看護 （骨折の看護）	1.重症児(者)の基盤となる脳性麻痺の病態生理を理解する 2.筋緊張・変形拘縮の発生機序から、身体的リスクを理解し看護展開ができる能力を養う	1.整形外科的合併症 2.脳障害と筋緊張の異常 3.筋緊張に対する薬物療法 4.変形拘縮の発生要因 5.姿勢管理 6.身体的リスクに関する予防とケア 7.骨折予防のためのケアと注意点
		2		動く重症児(者)（行動障害・発達障害）の看護	1.動く重症児(者)の病態生理や治療について理解する 2.生命・生活を守るための看護を理解し、日々の看護実践に活用する	1.行動障害高次脳機能障害の機序 2.特有の行動および言動 3.かかわり方のポイント・安全管理・権利擁護
		3		フィジカルアセスメント	1.基本的アセスメント能力を身に着ける 2.それぞれの状態に合わせた看護展開ができる能力を養う	1.消化器系、呼吸器系、循環系、脳・神経系、骨・筋組織系、皮膚・排泄系に関するフィジカルアセスメントの重要ポイント
		2		急変時対応（異常の早期発見・評価・対応）	1　急変に結び付く危険な兆候を理解する 2　急変時に行う3段階の観察と評価、対応について理解する	1患者急変時の看護師の役割 2予期せぬ死亡とその前兆（キラーシンプトム） 3急変時の評価と対応方法（迅速評価、一時評価、二次評価） 4急変時の通報と報告（SBER）
		4		呼吸リハ・肺理学療法	1.理学療法の必要性を理解する 2.看護師が生活の中で展開できる能力を養い、日々の看護実践に活用する	1.理学療法とは 2.呼吸リハビリテーション 3.日常的なケアの中で呼吸がしやすい環境 4.感染しずらい身体作り 5..呼吸介助
		3		姿勢と運動	1.姿勢と運動の必要性を理解する 2.看護師が生活の中で展開できる能力を養い、日々の看護実践に活用する	1.重症児(者)の運動姿勢機能 2.姿勢・運動とは 3.ポジショニング 4.変形と拘縮 5.評価 6.筋緊張緩和ケア 7.側弯、四肢拘縮変形 8.股関節脱臼の影響と予防 9.安楽な姿勢の保持 10.安楽な姿勢に必要な物品の活用

東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修　第7期　カリキュラム

カリキュラム中の「重症児」は、「重症心身障害児（者）」を指す。

	教科	時間数	ねらい	科目	目標	講義内容
	多職種との連携 リハビリテーション看護 ［重症児各論］ （15）	2		作業療法（運動機能障害と日常生活援助）	1.作業療法の必要性を理解する 2.看護師が生活の中で展開できる能力を養い、日々の看護実践に活用する	1.作業療法とは 2.作業療法の目的/適応 3.重症児(者)の持つ問題点とそのアプローチ 4.福祉器具/自助具の活用について 5.日常生活の中で作業療法について
		2		言語聴覚療法（摂食障害）	1.言語聴覚療法の必要性を理解する 2.看護師が生活の中で展開できる能力を養い、日々の看護実践に活用する	1.コミュニケーション障害とその対応 2.方法、ツール 3.心の発達 4.環境の認知 5.聴覚系昨日の認知発達と対応 6.視覚系機能の認知発達と対応 7.認知障害児者への対応 8.口腔機能の障害と摂食嚥下機能への影響について、
		2		感覚統合療法	1.感覚統合療法の必要性を理解し、看護師が生活の中で展開できる能力を養い、日々の看護実践に活用する	1.感覚統合療法とは 2.各感覚機能と発達の程度について 3.感覚統合理論に基づいた対象の理解 4.感覚統合療法に基ずいた日常生活支援について 5.感覚統合の実践について
		2		心理療法（音楽療法含む）	1.心理療法の必要性を理解する 2.看護師が生活の中で展開できる能力を養い、日々の看護実践に活用する	1.心理療法とは 2.発達評価方法 3.発達と心理的サポート 4.音楽療法とは 5.音楽療法の効果 6.音楽療法の方法と使用物品について 7.日常生活の中での音楽療法について
	実習 （35）	7		実習　通所事業所	1.臨地実習（通所）を体験し、在宅ケアと施設の連携を学ぶ 他施設での看護実践の経験を自施設での看護実践に役立てる	1.臨地オリエンテーション（施設の事業の概要・看護方式・看護方法・多職種との協働）・見学実習 2.ケア場面を見学しながら通所・在宅ケアについて考察する
		7		実習　訪問看護事業所	1.臨地実習（訪問看護）を体験し、在宅ケアと施設の連携を学ぶ 他施設での看護実践の経験を自施設での看護実践に役立てる	1.臨地オリエンテーション（施設の事業の概要・看護方式・看護方法・多職種との協働） 2.見学実習 3.ケア場面を見学しながら訪問看護・在宅ケアについて考察する
		7		実習　重症心身障害児者施設（超・準重症児）	1.臨地実習（重症心身障害児(者)施設）を体験し、超・準重症児看護の実際を理解する。 他施設での看護実践の経験を自施設での看護実践に役立てる	1.臨地オリエンテーション（施設の事業の概要・看護方式・看護方法・多職種との協働） 2.見学実習 3.ケア場面を見学しながら訪問看護・在宅ケアについて考察する
		7		実習　重症心身障害児者施設（動く重症児）	1.臨地実習（重症心身障害児(者)施設）を体験し、動く重症児看護の実際を理解する 他施設での看護実践の経験を自施設での看護実践に役立てる	1.臨地オリエンテーション（施設の事業の概要・看護方式・看護方法・多職種との協働） 2.見学実習 3.ケア場面を見学しながら訪問看護・在宅ケアについて考察する
		7		実習　NICU	1.臨地実習（NICU施設）を体験し、NICU看護の実際を理解する 他施設での看護実践の経験を自施設での看護実践に役立てる	1.臨地オリエンテーション（施設の事業の概要・看護方式・看護方法・多職種との協働） 2.見学実習 3.ケア場面を見学しながら訪問看護・在宅ケアについて考察する

東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修　第7期　カリキュラム

カリキュラム中の「重症児」は、「重症心身障害児（者）」を指す。

	教科	時間数	ねらい	科目	目標	講義内容
共通分野	看護管理・医療安全管理 (17)	2	1）重症心身障害児者に質の高い看護を提供するために必要な組織の在り方と看護管理の基本	看護管理・組織論	1.質の高い看護を提供するために必要な組織の在り方と看護管理の基本を理解する	1.組織論 2.目標管理 3.論理的思考 4.業務改善 5.マネージメントをするための基本的知識を学ぶ
		2		グループマネジメントの基礎理論	1.質の高い看護を提供するために必要なグループマネジメントの基礎理論について理解する	1.看護集団の特徴（グループダイナミクス） 2.リーダーシップスタイル（SL理論、PL理論、フォロワーシップ、ホーソン効果） 3.コミュニケーションスキル（アサーション、コーチング、ファシリテーション）
		2		人材育成の基礎知識	1.質の高い看護を提供するために必要な人材育成の基礎知識を理解する	1.自己現状分析 2.基本スキルの再確認 3.接遇などのコミュニケーション能力 4.新人研修、中途採用者研修
		3		重症心身障害児(者)施設における医療安全管理	1.医療安全にかかわる基礎知識を習得し、施設内で安全管理対策を講じることができる	1.医療安全の考え方 2.医療安全の実際 3.医療事故防止対策 4.医療事故調査制度について 5.リスクマネージメント 6.転倒転落アセスメント
		2		ME機器の管理	1.医療安全にかかわる基礎知識を習得し、施設内で安全管理対策を講じることができる	1.医療機器の安全使用のための研修（人工呼吸器、医療ガス、輸液ポンプなど）
		4		重症心身障害児(者)施設における感染管理	1.医療安全にかかわる基礎知識を習得し、施設内で安全管理対策を講じることができる	1.院内感染予防対策の考え方 2.標準予防策 3.環境整備 4.ケア別感染対策 5.経路別対策 6.アウトブレイク時の対策
		2		重症心身障害児(者)施設における褥瘡管理	1.医療安全にかかわる基礎知識を習得し、施設内で安全管理対策を講じることができる	1.重症児(者）の褥瘡予防対策と二次感染予防
	看護研究 (35)	2		看護研究の基礎・研究方法	1.重症心身障害児看護の質の向上のため、研究的視点を養う 2.看護研究の基本的考え方や方法を理解する 3.日常の看護実践に問題意識を持ち、研究的視点から問題解決を図ることができる 4.研究に取り組み、成果を情報発信することで社会的評価を得ることができる	1.看護研究の基礎・研究方法 ・看護研究とは看護研究の意義、倫理的配慮 ・課題の明確化 ・質的研究、量的研究 2. 研究計画書の作成 ・文献検索及び研究課題の絞り込み ・研究デザイン、方法の決定 ・研究計画書の作成・発表方法 3.研究のまとめ方1 ・データ収集と分析 ・結果・考察 4.研究のまとめ方2 ・論文の構成とまとめ方 ・中間発表 5.研究発表 ・発表体験
		24		研究計画書の作成と実践		
		3		研究のまとめ方		
		6		研究発表		
	その他 (4)	4		開講式・ガイダンス 実習ガイダンス 研究ガイダンス 修了式		